

藤崎八幡宮の例大祭について

一千年以上の歴史をもつ藤崎八幡宮の例大祭に九州電力グループ翔青會として参加しました。翔青會は、九州電力(株)の関連企業として総勢250名の団体で、当協会からも10名参加しました。



【写真上】参加者全員で記念撮影

神幸行列は、朝の神幸を朝随兵、夕の神幸を夕随兵と称し、御神幸は卯の刻（午前6時）に出発して、70団体で総勢約15000名の勢子と70頭余の馬で行列を組み、市街を目抜き通りお旅所へ向かい、夕随兵で国道3号線を経由して藤崎八幡宮へ戻る約9kmの道のりを練り歩きました。



【写真上・下・左】神幸行列



【藤崎八幡宮例大祭概要】

おびたしい数の馬と勢子（馬を追う人）との集団が、肥後っ子の心意気を遺憾なく発揮して、次から次に威勢よく駆け抜けていく。もともと飾り馬は、供奉神職が乗るための馬であったが、江戸時代には本宮と御旅所との距離が近かったため、乗馬せずに牽き馬として従っていた。そこで空いた鞍の上に装飾を施すようになり、それが次第に大型になって現在のような紅白または青黄などの色布で巻いた太輪の飾りとなった。この馬は、藩政時代には細川藩の高禄の家から駿馬に足軽・中間をつけて提供し、定めめの駐場で俊足を競わせたので、その見物で大層な賑わいを呈した。明治以降は飾り馬も町方から奉納されるようになり、現在は氏子崇敬者団体の奉納が70頭程にもなり年々盛大を極めていく。



【写真】各企業の代表者で鏡割り



【写真】参加の協会職員(かっこいい！)